



NPO法人安房文化遺産フォーラム

代表 愛沢 伸雄

〒294-0036 千葉県館山市館山 95 小高記念館 TEL&FAX:0470-22-8271

Eメール awabunka@awa.or.jp http://bunka-isan.awa.jp/

和島誠一賞

安房文化遺産フォーラムが受賞

文化財保護の功績を評価

文化財保存全国協議会(事務局・大阪市)が設立し、文化財保護に功績のあった個人・団体に授与される「和島誠一賞」の第10回受賞者に館山市のNPO法人安房文化遺産フォーラム(愛沢伸雄代表)が選ばれ、14日に京都市の同志社大学で授賞式が行われた。

全国協議会は、同フォーラムがこれまで手掛けた館山市の赤山地下壕をはじめとする戦争遺跡、里見氏稲村城跡などの保存・活用運動を高く評価。「市民に広く文化

遺産の歴史的意義の普及をはかられたこと」を「顕著な功績」とたたえた。

愛沢代表は「われわれの活動だけでなく、安房地域の市民がつくり上げたものを



表彰状を手にする愛沢代表(右)と池田事務局長

全国が評価してくるのだと思う。これまで多くの集方々の集會参加、署名の取り組みに感謝している」と喜びを語った。

同フォーラムの設立母体は、1989年に安房地域の戦争遺跡の調査保存を目的に活動をスタート。太平洋戦争中「海軍のまち」だった館山市の当時の歴史掘り起こしに尽力したほか、戦争遺跡を保存し平和学習に活用する取り組みを進めてきた。

96年には里見氏稲村城跡の保存運動に乗り出し、地域住民との現地ハイクを繰り返すなど粘り強い活動を展開。城跡の上に計画された市道建設ルートの変更を勝ち取る

などの実績を挙げた。和島誠一賞は、文化財保護思想の普及を広く提唱し、神奈川県三殿台遺跡などの遺跡保存を積極的に進めた考古学者、故和島誠一氏を記念し2000年に設立。これまで長岡京東院の保存運動に尽力した作家の永井路子さん、国立歴史民俗博物館館長を務めた故・佐原真氏、長野県の「松代大本営の保存をすすめる会」などが受賞した。

房日新聞 2009.6.18.

<新しいホームページ>

*NPOフォーラム <http://bunka-isan.awa.jp/>

*blog 安房国再発見 <http://ameblo.jp/awabunka1/>

(文化財保存全国協議会第40回京都大会 2009年6月14日 於:同志社大学)

本日はこのような名誉ある表彰を賜り誠にありがとうございます。NPO法人安房文化遺産フォーラムを代表いたしまして、深く感謝申し上げます。全国には遺産保存に顕著な功績をあげている団体が数多くありますが、このなかで私たちのNPO活動を選定していただき、大変光栄に思っています。

この20年余、地域の戦争遺跡や里見氏城郭群の保存・史跡化への取り組みにご支援ご協力いただいた、文化財保存全国協議会をはじめ戦争遺跡保存全国ネットワークの皆様や全国のさまざまな文化財保存の関係団体の皆様に対し、この場をお借りしまして深くお礼申し上げます。

また、このたびの光栄ある受賞を地域において保存運動を支えてくださった方々に、とりわけこの間にお亡くなりになった方々に対して、この受賞をご報告するとともに、あらためて深く感謝を申し上げます。里見氏稲村城跡の保存では1万名をこえる方々の署名があつて破壊がまぬがれました。そして14年目に入って、現在、国指定史跡にむけて調査検討されています。私もその委員の一人です。

嬉しいことに本日6月14日は、稲村城跡のある館山市の稲地区町内会において、保存活用に関する委員会が設立され、その総会が開催されていると聞きます。偶然にも本日の受賞の日を境に新たな段階をむかえ、私たちが願っていた地域の人びとによって後世に伝え、残していこうという動きが始まったことをご参加の皆様にご報告できることをとても喜んでいました。

かつて「いったん決めたことはもう後戻りできない。保存運動はこまる」と語っていた地域の人びとが、いまは自らの力で保存・活用に立ち上がったことに対し、敬意を表するとともに、今後とも同じ志をもつ市民として、ともに手を携えて地域づくり活動のなかで連携していきたいと思っております。

ところで私は20年前の1989年に、館山市内にある売春防止法に基づく、障害を持った女性たちのための日本では唯一の女性保護施設「かいた村の村」を初めて訪問しました。施設内の丘の上にある「噫従軍慰安婦」石碑と丘の中腹にある本土決戦の抵抗拠点であった地下壕を見学し、大きな衝撃を受けました。そのときに「かいた村」創設者であった深津文雄牧師との出会いもありました。女子高で世界史を教えていた私は、深津牧師から伺ったさまざまなお話によって、地域に根ざした歴史教育や平和学習に取り組むきっかけとなりました。女性史の視点から戦争のもっている意味を学ぶことができる丘の上の石碑と、「戦闘指揮所」「作戦室」という額のある本土決戦のために地下壕は、授業実践のなかで重要な教材になりました。

当時、戦争遺跡は地域開発のもとで次々と破壊され、またゴミ捨て場にされていきました。以来、多くの市民の方々のご協力をいただき、調査研究をつづけ、「戦後50年」の際は200名近くの市民と「平和を考える集い」実行委員会を立ち上げ、さまざまな取り組みを企画し、同時に戦跡の保存を訴えてきました。このことが契機となって市民による戦跡調査保存サークルが公民館活動に生まれ、今日の私たちのNPOによるガイド活動の原点になっていきました。

戦跡の保存をすすめているなか、1996年に里見氏稲村城跡が市道によって破壊される直前にあると知り、急遽呼びかけて50名ほどの市民たちによって「里見氏稲村城跡を保存する会」を設立しました。私は「地域のシンボリックな里見氏の文化遺産を守れなくて、戦跡などの保存はありえない」と思い、戦争遺跡の保存に協力していただいている方々に、戦国期の戦争遺跡である稲村城跡の保存を訴えて協力を願ったのです。まったく異なった歴史文化でしたが、私にとって両方が地域の貴重な文化財であり、2つの保存運動を並行してすすめていくことが両方の文化財保存にとっても重要と思ったのです。「地域活性化のために道路は必要、稲村城跡が無くなっても仕方がない」「戦跡は暗くて、花の房総のイメージに相応しくない」など強い風当たりのなかで、保存はもちろん史跡化にいたっては「100年経っても無理」と揶揄する行政担当者たちと対峙していました。

そのなかで、2004年に「館山海軍航空隊赤山地下壕跡」が整備され一般公開され、翌年には市指定史跡となり、この戦争遺跡が平和学習の拠点として、まちづくりのなかに位置づけられたときには隔世の感を持ちました。

これらのことを振り返るとき、市民が主役になって文化財保存運動を作り上げていくために、文化財保存全国協議会の取り組みに学びながら、私たちの住む地域の人びとの思いや願いを踏まえて、自分たちの身の丈にあった文化財保存運動を地道にすすめていきました。私にとって「かいた村」の深津牧師から学んだ「余ったから分けるというのではなく、無くてもお互いに分かち合うコミュニティをつくっていく」という地道で息の長い地域づくりの実践活動のひとつが、地域にある文化財を保存・活用していく取り組みにあったと思っています。私の場合は子どもたちとつくってきた授業づくりが原点になって、学ぶ力を市民が主役になった地域力にし、さらにNPOの市民力につなげて文化財の保存・活用の道を切り開いてきました。

安房出身の教育学者・和田修二先生は「人間は現在だけでなく、過去と未来との間に生きる存在」なので、「過去に守るに価する大切な思い出をもつこと」「未来に向かって為すべき課題をはっきりと自覚すること」によって、今を生き抜く希望と勇気の支えとなるといい、この2つを「大人の世代が日常生活の中で身をもって若い世代に教えること」が教育の基本であると述べています。多分、市民とともに歩む文化財保存運動を呼びかけてきた先駆者和田誠一先生もそのことを私たちに投げかけてきたのではないかと思っています。自分たちの頭で考えて、借り物でない確かな自己の立場と思想をもって、あらためてNPO活動に邁進したいと決意しています。

最後に私事で誠に恐縮ですが、本日6月14日は次女綾子の25歳の誕生日です。娘は昨年7月8日に脳の病気である統合失調症での稀死念慮に苦しみながら、遺書を残して自死しました。大学2年生の20歳に発病して4年間、ときに絵画制作やNPO活動に参加し自宅療養を続けていました。このこともあって、私は高校教員を8年早く辞め、娘を看ながらNPO活動に専念してきました。まちづくりのなかで取り組んでいた「まちかどミニ博物館」のひとつとして、館山病院内にミニギャラリーをつくった際に、第1回目の個展開催は娘綾子が協力してくれました。NPOフォーラムではどんな人びとも参画できる地域づくりを呼びかけていますが、「かにた村」のように障害があっても人間らしく生きていく地域社会の創生が私たちの願いです。

娘の24年間の短い人生は、私の文化財保存運動の軌跡そのものでした。全国には息の長い保存運動のなかで、いろいろな困難、なかには家族のことを含めて大きな困難を抱えながら文化財保存に取り組んでいる方々も多いと思います。私もつらく悲しい思いでしたが、娘綾子が私の背中を押してくれたことで、今日という受賞につながったと思っています。本日は本当にありがとうございました。

【和島誠一賞表彰状】

NPO法人安房文化遺産フォーラム様

貴団体は、館山市赤山地下壕はじめ戦争遺跡と里見氏稲村城跡など、千葉県南房総地域の中世・近代遺跡や歴史遺産の多彩な保存・活用運動を通して、市民に広く文化遺産の歴史的意義の普及をはかられました。この顕著な功績に対し、第10回和島誠一賞を贈り、表彰いたします。

2009年6月14日 文化財保存全国協議会

【和島誠一賞とは…】

その趣旨は、20世紀後半に行われてきた歴史的環境を保存する文化財保存運動の先駆けをなし、また大きな足跡を残した考古学者故和島誠一氏(岡山大学教授)を記念した文化財保存の賞です。和島氏は考古学的に科学的精神を啓発され、神奈川県三殿台遺跡などの遺跡保存を積極的に進められたことをはじめ、文化財保護思想の普及を広く提唱し、また積極的に実践を行いました。文化財保存全国協議会では、和島氏が遺された文化財保護思想の遺産に深く学びながら、21世紀に文化財保護、活用および普及をさらに飛躍的に発展させる期待を込めて、2000年5月より「和島誠一賞」を設け、遺跡保存に顕著な功績を挙げている個人と団体を表彰しています。

【歴代受賞者】

- 第1回*直木孝次郎氏、大分県文化財保存協議会
- 第2回*佐古和枝氏、田和山を見る女性たちの会、田和山文化財訴訟弁護団
- 第3回*佐原真氏、皇子山を守る会
- 第4回*門脇禎二氏、奈良世界遺産市民ネットワーク
- 第5回*吉田晶氏、文化財フォーラム愛媛、文化財保存新潟県協議会
- 第6回*甘粕健氏、乙訓の文化遺産を守る会、山科本願寺寺内町を考える市民の会
- 第7回*永井路子氏、国史跡八王子城とオオタカを守る会
- 第8回*峰岸純夫氏、宮川蓑氏、松代大本營の保存をすすめる会
- 第9回*小泉功氏、戸沢充則氏、吹田操車場遺跡・明和池遺跡の保存と活用を考える市民の会
- 第10回*今井堯氏、緑と教育と文化財を守る会、NPO法人安房文化遺産フォーラム

◆韓国ソウル&鳥取倉吉で講演会◆

- ①8月11日(火)午後 韓国ソウル平和博物館(仁寺洞)にて平和講演
講師：愛沢伸雄、池田恵美子 / 同行者：浅井信、愛沢香苗
- ②8月22日(土)午後 鳥取県倉吉市にて里見氏調査会の報告講演
講師：川名登、佐藤博信、滝川恒昭、愛沢伸雄

■ 小高記念館の「知恵袋講座」 … 参加費 200 円。楽しい茶話会です。…

◎ 6月23日(火) 13:30 …終了…

講師：山口栄彦さん テーマ：「布良と絵描き～青木繁から無言館まで」

布良出身、エッセイスト。著書『鯨のタレー伝統文化と房総の漁師たち』『消えた砲台一少年と館山砲術学校』等。ふるさとへの想いを語る。

◎ 7月28日(火) 13:30

講師：豊崎栄吉さん テーマ：「布良の船大工とまちづくり(仮題)」

布良の4代目船大工。祖父が小説『鬼が瀬物語』シリーズ(岡崎ひでたか著)のモデルとなっている。当日は貴重なビデオ(①若かりし頃の船吉棟梁②青木繁の孫・石橋エータローが布良訪問)を鑑賞します。

◎ 8月25日(火) 13:30

講師：愛沢伸雄さん／池田恵美子さん テーマ：「館山と韓国の平和交流」

今夏、ソウル平和博物館に招聘され、平和講演を行なう。仁川のまちづくり市民活動グループとの交流、板門店訪問などの報告会。

■ 無言館・窪島誠一郎館主講演会 … 長野県上田市にある戦没画学生遺作美術館。

◎ 7月10日(金) 18:00 千葉県南総文化ホール小ホール 入場料 500 円

館山海軍砲術学校に所属した小柏太郎さんをはじめ、千葉県にゆかりの人も少なくありません。

■ 安房反核フェスティバル

◎ 7月11日(土) 10:00～17:00 館山市コミュニティセンター

展示＝原爆パネル、小学生の平和の絵 / 吉永小百合朗読ビデオ観賞

11:30～13:30 すいとん食堂 …食をとおして平和を考えよう。

14:00～15:30 ●愛沢伸雄氏講演会「安房の戦跡から平和を考える」

*7月1日～14日 館山駅市民ギャラリーにて、原爆写真展示

■ 船田正廣 古希記念展 … 主催：安房高校美術部OB有志

◎ 8月14日(金)～25日(火) 千葉県南総文化ホールギャラリー

■ 第5回安房・平和のための美術展 … 安房のアーティストが一同に大集結！

◎ 8月28日(金)～9月6日(日) とみうら枇杷倶楽部ギャラリー

■ アメリカ占領軍の館山上陸シーン映写会

◎ 9月3日(木) 13:30 館山地区公民館 参加費：無料

ミズーリ号の敗戦調印式の翌日9月3日、占領軍本隊 3,500 名は館山に上陸し、本土で唯一「4日間」の直接軍政を敷きました。当時の貴重なフィルムには子どもや女高生なども映っています。

■ 愛沢綾子 回顧展 … 天に召されて1年。綾子さんの絵はメッセージを語り続けています。

◎ 9月20日(日)～23日(水) とみうら枇杷倶楽部ギャラリー

■ ヲウミホテル合唱団・安房♪ … 見学や体験練習は無料です。

館山の戦跡保存と平和研修から生まれた合唱組曲『ウミホテル～コスモブルーは平和の色』。

【入会金】 1,000 円(新楽譜代・通信費を含む) 【団費(月額)】 2,000 円 【指導者】 栗原けい子先生

♪7月 9日(木) 19:00～20:30 コミセン音楽室 ♪7月 16日(水) 19:00～20:30 コミセン音楽室

♪7月 23日(木) 19:00～20:30 コミセン音楽室 ♪8月 20日(木) 19:00～20:30 コミセン音楽室

♪8月 27日(木) 19:00～20:30 コミセン音楽室

◆ ツアーガイドのスケジュール

7月2日(木) 9:50～15:30 君津市市民相談委員 17 名 座学・基本・かいた村

7月5日(日) 10:00～12:00 赤山無料ガイド

7月 15日(水) 10:30～15:00 県立長生高校 320 名 基本

7月 20日(海の日) 10:00～12:00 赤山無料ガイド

7月 24日(金) 14:30～16:00 中野ブロードウェイ子ども交流 赤山

7月 24～25日(金土) 富士国際旅行社 30 名 座学・基本・かいた・館砲・震洋・四面石塔

7月 25・27日(土・月) 世田谷学園(129 名・84 名) 基本

あなたもガイド活動に参加してみませんか？
アシスタント大歓迎！
毎月第一火曜 18:00～
連絡懇談会＝小高記念館

富崎地区の活性化目指す

安房文化遺産 国交省のモデル事業受け フォーラム

国土交通省が全国の地域団体を対象に募集した「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業に、館山市のNPO法人「安房文化遺産フォーラム」(愛沢伸雄理事長)が提案した同市



保存を求める声が出ている小谷家住宅＝館山市布良

富崎地区でのまちづくりプロジェクトが新たに選ばれた。21年度は同省が事業費約250万円が交付される見通し。愛沢理事長は「地区の人々と協力し、富崎が持つ漁村集落としての文化遺産、食文化をフル活用して3年計画で地域の活力を高めていきたい」と語った。同市の南西部。布良、相模の両集落から成る富崎地区は、基幹産業だった漁業の衰退に伴い年々少子高齢・過疎化が進行。1140人の人口のうち65歳以上の割合が46%(19年3月現在)と、いわゆる「限界集落」の一步手前の状態で、共同体としての機能維持が危ぶまれている。

同フォーラムでは地区のまちづくりにあたり、地元の富崎小が実践している「ふるさと学習」のテーマ「3つの『あじ』」「海の幸」を描いた画家青木茂、安房節、アジのひらき」に注目。

▽青木繁ゆかりの小谷家住宅の解体修理ならし文化遺産の保存、活用▽地元研究協議会の「台併後の地域が活きる」市民力、

ボルとする漁村文化の調査・伝承▽地元食文化を核にしたコミュニティビジネスの展開―を3つの柱に据え、さまざまな事業を近々スタートさせる。

今年度は調査・研究や各種の条件整備が主な活動となるが、最終的にはモデル的なコミュニティレストランを地区に立ち上げたり、特産品を独自開発するなどして観光資源を徐々に整備。JRや旅行会社と連携した事業展開も探り、地区の活性化につなげることを目標とする。

国交省の同モデル事業は昨年度、鴨川市のNPO法人、大山千枝田保存会による「ふるさと回帰」促進事業の整備」と南房総市新たな地域づくり研究協議会の「台併後の地域が活きる」市民力、

コア機能」創成事業」が選定されており、それぞれ今年度も継続して事業費が交付される。

2009. 6. 3 房日新聞

【趣 旨】

(国土交通省)

人口減少、高齢化といった社会情勢の変化が進展し、公共交通や福祉などの社会サービスの継続が困難となり、あるいは従来以上にきめ細かな対応が必要となるなど、地域づくりを進める上で様々な問題が生じています。一方で、個人、NPO、企業等の多様な民間主体の活動が多様化・高度化し、私的な利益にとどまらない公共的価値を創出するような状況が生まれています。そこでこのような民間主体が相互に、あるいは民間主体と行政とが有機的に連携して協働し、従来の「公」の領域に加え、公共的価値を含む「私」の領域や「公と私との中間的な領域」にその活動を広げ、地域住民の生活を支え地域活力を維持する機能を果たしていくとき、これらの主体を「新たな公」と位置づけます。『「新たな公」による地域(コミュニティ)づくり』とは、「新たな公」が地域住民の生活を支え地域活力を維持する機能を果たしていくもので、例えば、居住環境整備、環境保全、国土基盤のマネジメント、防犯・防災対策、子育て支援、高齢者福祉、地域交通の確保など地域における広汎な課題に適しています。

本モデル事業では、こういった「新たな公」による地域(コミュニティ)づくりの活動をモデル的に実施するため、「新たな公」の担い手となる団体から地域づくりの具体的な活動についての先進的、モデル的でありかつ一過性でない活動に関する提案を広く募集し、応募された提案の中から相当数を選定して、調査費(国費)を活用して活動を展開していただきます。これらの活動を通して「新たな公」による地域づくりの新しい道筋をつけるとともに、その成果をとりまとめ広く公表することにより、そうした取組を全国に広め展開していくことを目的とします。

平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

団体名： 特定非営利活動法人安房文化遺産フォーラム		
モデル事業名： 漁村が誇る「3つの“あ”」のまちづくり ～青木繁《海の幸》、「安房節」、アジのひらき～		
〈21年度の実施内容〉 ※ 青木繁《海の幸》誕生の家と記念碑を保存する会 との連携を図る		
<p align="center">-プロジェクト1-</p> <p align="center">●青木繁《海の幸》の“あ”●</p> <p align="center">文化遺産保存と コミュニティファンドづくりの条件整備</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 小谷家住宅や記念碑保存のための調査研究 <ul style="list-style-type: none"> 文化財アドバイザー会議の開催 富崎地区にまつわる美術史研究や漁村集落景観の美術的検証 周辺環境の保全整備(草刈り等) 文化遺産コミュニティファンドづくりの条件整備 <ul style="list-style-type: none"> 連携協働体制の強化 (イベント開催、パンフレット作成、広報PR活動など) <p>【時期】 6月～2月</p>	<p align="center">-プロジェクト2-</p> <p align="center">●「安房節」の“あ”●</p> <p align="center">漁村集落の生活文化の 調査研究と記録・伝承</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 舟唄「安房節」の記録保存と調査研究 <ul style="list-style-type: none"> 安房水産業史からみた富崎村文書の調査と検証 関東大震災と元禄地震の津波被害の検証 聞き取りと情報収集 ITのデータベース構築 広報活動 <ul style="list-style-type: none"> 資料パネル作成と公民館等で展示 ウォーキングコース設定とイラストガイドマップの作成 <p>【時期】 6月～2月</p>	<p align="center">-プロジェクト3-</p> <p align="center">●アジのひらきの“あ”●</p> <p align="center">コミュニティビジネス実現 に向けての調査と人材育成</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 食文化「おらがごっつお(わがやのご馳走)」の調査研究 <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査 調理実習 レシピ集の編集 コミュニティビジネスの検証 <ul style="list-style-type: none"> イラストガイドマップの商品化と販売 ガイド養成講座とまちづくり講座による人材育成。 <ul style="list-style-type: none"> ツアーガイドの実践。 <p>【時期】 6月～2月</p>
<p>↓ ↓ ↓</p> <p align="center">●成果のとりまとめ、担当地方整備局等へのモデル事業結果の報告(3月)</p>		

〈22年度の事業計画案〉

- 文化遺産コミュニティファンドの第一目標として、《海の幸》レリーフのブロンズ像制作
- 食文化レシピ集の充実および商品化研究
- 福岡市久留米「青木繁旧居保存会」などゆかりの地との交流、支援ネットワーク構築
- 漁村交流体験事業の試行
- ウォーキングコースの充実(宿泊業者や漁協直売所との連携)
- 調査研究とITデータベースの蓄積
- 全事業を連携させた継続的な事業運営方法の検証

〈23年度の事業計画案〉

- 文化遺産コミュニティファンドの第一目標として、小谷家住宅の解体修理
- モデル的なコミュニティレストランの運営
- 自立的事業展開戦略の確立(JRや旅行会社と連携)
- まちづくりコーディネーターの資格取得制度の検討